

はるかぜ図書館だより

つくば国際大学東風高等学校 図書館 2018年9月発行 No.5

みなさん、こんにちは！9月も半ばとなり、段々と日が短くなっていくのを感じますね。

「平成最後の夏」という言葉をあちこちで耳にした今年の夏でしたが、夏休み中、みなさんは何冊の本を読みましたか？一冊も読んでいないという人も多いのではないのでしょうか。

涼しくて過ごしやすい秋は、アクティブに活動するのにとてもいい季節だと思います。読書はもちろん、スポーツの秋、芸術の秋…。みなさんにとってスキルアップになるような、有意義な「平成最後の秋」の過ごし方を見つけてくださいね！

図書館からのお願い

夏季休業中、図書の本棚作業へのご協力ありがとうございました。

結果的に5冊の本の所在が不明になっていることが分かりました。もし、貸出手続きをせずに持ち出してしまった本があるという人は、至急図書館まで返却をお願いします。

また、貸出期限が過ぎてしまっている本を持っているという人も、返却あるいは貸出延長の手続きを忘れずに行ってください。いずれも行われなかったものに関しては、順次督促状を発行していきますのでよろしくをお願いします。

図書館にあります！

以前行った図書購入希望調査において、すでに図書館に置いてある本のリクエストが数冊ありました。

もし置いてある場所が分からなかったら、気軽にカウンターにいる担当者まで問い合わせてくださいね！



ソクラテスの弁明	著：プラトン
モンテ・クリスト伯	著：アレクサンドル・デュマ・ペール
火花	著：又吉直樹
アルジャーノンに花束を	著：ダニエル・キイス
	etc

百人一首のハナシ

ひとつの言葉が複数の意味を持っていたり、聞きなれない言葉も多く、なかなか読み解くことが難しい百人一首。しかし今回は、百人一首ならではの遊びが盛り込まれながらも単純で読みやすい一首をご紹介します。



吹くからに 秋の草木の しるれば むべ山嵐を あらしというらむ

小倉百人一首・第22番 文屋康秀（生没年未詳）

【現代語訳】山嵐が吹きおろしてくると、たちまち秋の草木がしおれ始める。なるほど、だから山嵐のことを「嵐」というのだろう。

山嵐が草木を荒らす様子を、荒らし＝嵐と掛けています。さらに「山」「風」という漢字を組み合わせると「嵐」という漢字になりますよね。そういった漢字遊びも取り入れられています。

シンプルでユニークな歌ですが、四季がある日本ならではの大変風情のある一首なのでした。

おすすめの本

人魚の眠る家 著：東野圭吾

娘の小学校受験が終わったら離婚する。そう約束した仮面夫婦の二人。彼等に「娘がプールで溺れた」と悲報が届いたのは、面接試験の予行演習の直前だった。病院に駆けつけた二人を待っていたのは残酷な現実。医師からは、思いもよらない選択を迫られる…。

臓器移植がテーマのお話ですが、深く考えさせられました。家族、親戚、学校の先生、臓器移植のためのボランティアを行う人など、様々な視点から物語が進んでいきます。倫理学や、医療・福祉関係の仕事に興味がある人には特におすすめしたい一冊です。

サファイア 著：湊かなえ

宝石にまつわる人間の摩訶不思議で切ない出逢いと別れ。罪と愛と夢を描いた傑作短篇集。

宝石と聞くとどんなイメージが浮かびますか？美しい、キレイ、価値のあるもの、かけがえのないもの…。そんなポジティブなイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。しかし、この小説の登場人物たちにとっては必ずしもそうではありません。短編集で読みやすいので、読書が苦手な人も読みやすい一冊です。

また、同じ夢を見ていた 著：住野よる

学校に友達がいない奈ノ花が出会ったのは手首に傷がある南さん、とても格好いいアバズレさん、一人暮らしのおばあちゃん。そして尻尾の短い【彼女】だった。彼女たちの「幸せ」はどこにあるのか。「やり直したい」ことがある、「今」がうまくいかない全ての人たちに送る物語。

主人公を通して、作中「幸せとはなにか」と考えさせられる場面が何度もありました。その答えを出すことは簡単なことではないですが、私はこのお話を読んで「一日一日をもっと大切に懸命に生きよう」と思えました。読めばきっと誰かに優しくなれる、心が温くなる一冊です。